

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1070900319
法人名	株式会社栄光製作所
事業所名	グループホーム虹の家
所在地	藤岡市岡之郷1166-1 (電話) 0274-40-3478

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年9月28日

【情報提供票より】(平成21年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費350円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	380 円	おやつ 70 円

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	7名	男性	0名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7歳	最低	73歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松岡内科医院、松岡歯科医院、公立藤岡総合病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

虹の家では理念の他に「目配り、気配り、思いやり」を大切に、利用者の意向を汲み取り、いつも誰かが傍らにいて安心感をもってもらえるような支援を行っている。家族会はH15年から毎月開催し、誕生祝いや、季節の行事を通して家族との交流を図っている。また、七夕や納涼祭などの地域行事に参加し、運営推進会議では地域の方々とも意見を交わし、ホームの改善に役立っている。毎月発行している「虹の家新聞」は、自治会を通して地域に回覧されホームの活動を紹介している。併設の小規模多機能ホームと連携し、介護が必要になった時、地域の方が気軽に相談し、利用できるホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を受けて、これまで9名の利用者が円形テーブルを囲んで食事をし、職員は別のテーブルで見守りをしながら同じ食事をしてきたが、会議で検討した結果、円形テーブルに職員が1名入ることとした。利用者同士の交流を遮らないように利用者を見守りながら、一緒に食事をし、他の職員は近くのテーブルで見守りながら食事している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を全職員に配布し記入後、管理者が取りまとめている。自己評価の結果を話し合い、日々のケアの改善に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催され、利用状況、活動報告の他、質疑応答や意見交換が行われている。緑地公園のトイレ整備や郵便ポストの設置等意見が出され検討された結果、ポストは近隣のお店に設置された。また、野菜作りの手伝いやアドバイスをいただいている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者や職員は、家族の意見や苦情を汲み取るように努めている。家族会や面会時に、直接家族から意見をもらうことがある。下駄箱の名前が剥がれていたり、箸の置きかたが違っていたり、家族会時には職員は忙しく動き回らず一緒に交流してほしい等素直な意見をいただき、職員で検討し改善している。契約時には、外部の苦情相談窓口を説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の小学校の七夕や納涼祭に参加したり、敬老の日には近隣の保育園児や小学生の体験学習を受け入れている。消防署の協力による救急救命講習会には地域の方にも参加していただいたり、花壇や菜園作りに協力していただくなど地域の人々と日常的に交流が図られている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心して自分らしい生活を支援し、地域との関わりを大切に開かれたホームを目指す」という理念を平成15年の開設時に掲げ、虹になぞらえて7つの運営方針で具体化している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に、職員全員で理念を読み上げ共有している。自分らしい生活、プライバシー保護、残存能力の活用、利用者と家族の心の架け橋等7つの理念を、意識づけ実践できるよう日々の介護の中で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の七夕や納涼祭に参加したり、敬老の日には近隣の保育園児の訪問や小学生の体験学習を受け入れている。救命講習会には地域の方にも参加して頂いたり、花壇や菜園作りに協力していただくなど、地域の人々と日常的に交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価用紙を全職員に配布し、記入してもらい、管理者が取りまとめている。前回の外部評価を受けて、職員会議で検討し、今まで職員は別のテーブルで食事をしてきたが、9名の利用者が食事をしている円形テーブルに職員1名が入ることとしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回、併設の小規模多機能事業所と合同で開催し、利用者の状況や行事報告後に意見交換が行われている。緑地公園のトイレ整備や郵便ポストの設置等周辺の環境整備について意見や要望が出され、ポストは近隣の店に設置されている。また、野菜作りの手伝いやアドバイスをいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種更新書類を持参した際に担当者に声かけしたり、電話で情報交換をしている。困難事例を担当職員に相談し、上手なコミュニケーションの取り方について助言して頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や家族会に家族が来た時に、個別に日常生活状況、金銭管理、職員の異動等の報告をしている。家族会は、平成15年から月1回行っており、ほとんどの家族が参加している。手書きのA3版のカラー刷りの「虹の家新聞」は、毎月家族に配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に、直接家族から意見や助言等ももらっている。下駄箱の名前がはがれている、箸の置きかたが違う、家族会の時には職員は忙しく動き回わずに一緒にいてほしい等率直な意見を頂き、職員間で検討し改善している。契約時には、外部の苦情相談窓口を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は管理者と連携して、現職員が長く仕事を続けられるように、個々の事情に合わせた勤務ができるように配慮し、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修は、基礎研修、管理者研修、実習担当者研修に参加している。法人内の研修は、年間の研修計画は作成されていないが、必要に応じてレベルアップにつながる資料等あれば回覧したり、スーパーバイザーとして日常的にアドバイスをしてくれる職員がいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、前年度はブロックで交換研修を行い、気づきを出し合っている。今年度は半日間の施設見学と認知症サポーター養成講座を実施する予定で、同業者との交流を通じた向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスとショートステイを利用していた利用者には、職員がデイサービス施設に出向き、本人とお会いしたり、お試し入居を行い、少しずつ馴染める環境を作りながら入居となった。また、併設の小規模多機能事業所を利用しながら、スムーズに入居を支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の大先輩として尊重し、残存能力を最大限に活かすようできることは行ってもらっている。もやしの芽とり等食材の下準備やおしぼりたたみ、干し柿作りなどを、一緒に行っている。また、農家出身の利用者からは干し柿作りや薬剤師だった利用者には薬のことを教えてもらう等支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制になっているので、職員は部屋の整理時や入浴時等の1対1で話せる時間に、思いや意向の把握に努めている。情報は、申し送りノートに記入したり、会議の中で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員がケアチェック表を記入し、本人や家族の意見を取り入れて、ミニカンファレンスや月1回の職員会議で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成し、家族の同意をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月行い、介護計画の見直しは3ヶ月毎に行っている。昨年から見直し以前に対応できない変化が生じたことはなかった。日々のケア記録、サービス計画書、申し送り帳、毎月のモニタリングはそれぞれ記録され、別々のファイルに綴じられている。	○	これらを1つにまとめる等利用者の状況をわかりやすい流れの記録として介護計画を作成されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の方が気軽に介護相談ができるようなホームを目指しており、満床時や緊急性のある場合には併設の小規模多機能事業所の利用を提案している。必要に応じ受診の送迎をしたり、隔月に理美容師にホームにきていただく支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聞き、本人や家族が希望する医師に受診できるようにしているが、現在は全員が協力医をかかりつけ医とし、月に2回の往診を受けている。必要に応じて歯科医の往診も受けられるようにしている。緊急時等家族が行けない場合は職員が同行し、受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	食事摂取が困難になってきている利用者については、医師と相談の上、栄養補助食品等で対応している。家族は出来る事ならホームでの看取りを希望されているが、ホームでの看取りは経験がないので、受け入れについて躊躇している。ターミナルケアに関する指針は作成されていないが、緊急時には協力医の往診対応もあり、併設の小規模多機能事業所の看護師の訪問も週1回行われている。	○	事業所の方針を定め、職員及び家族等関係者で共有することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「利用者のプライバシーを守り、差別することなく、人生の大先輩として尊重します」と理念に位置づけている。呼称は「さん」付けで、排泄時はさりげなく声かけして、定期的にトイレ誘導している。記録物等は事務所に保管し、個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れは決まっているが、1人ひとりのその日の体調や気持を考慮し、利用者の希望に添った過ごし方ができるように見守りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや豆類の筋取り等調理の下準備、テーブルや茶碗拭き、配膳や下膳等を利用者と共に行っている。昼食は食材業者のメニューで調理しているが、季節のメニューやおやつについては利用者の希望を取り入れている。利用者と職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月、水、金の午後とし、順番は希望を優先させている。毎日の入浴や夜間入浴を希望する利用者は、現在はいない。入浴を拒否する利用者には無理強いすることなく、再度、声かけをしている。ゆず湯や菖蒲湯で季節感を出し、時には入浴剤を使用して楽しく入浴できるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみ、テーブル拭き、皮むき、まんじゅう作り等職員と一緒にしている。字が上手な利用者には、新聞の題字を書く役割を担ってもらっている。合唱、塗り絵、紙芝居、縫い物等をしたり、利用者全員が女性なので、お化粧をしたり、マニキュアを塗ったり気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	長寿のお祝いで役場に行ったり、彼岸の時は家族と外出する利用者もいる。敷地内の畑に散歩に出かけたり、併設のホームの広い玄関先で外気浴をしている。季節毎のドライブや大型ショッピングセンターへ買物にも出かけ、楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害をよく理解しており、日中、玄関や談話室出入口に鍵をかけないケアを行っている。玄関はセンサーで音が鳴るしくみになっている。無断外出時には職員が付き添って外を一回りするなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、併設の施設と合同で避難訓練を行っている。自主避難訓練の他、消防署の指導を受け非常通報訓練、消火訓練、夜間を想定した避難訓練を行っている。消防署の協力で行う救急救命講習会には、地域の方にも参加していただいている。災害時の地域の人々の協力は、区長を通じて依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録に水分と食事摂取量を記載し、職員間で情報を共有している。昼食については業者のメニューで、それ以外は職員が栄養バランスに配慮して献立を作成している。食事摂取量が不足する場合は医師に相談し、総合栄養剤等栄養補助食品等で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には大きい掃き出し窓があり、天井も高く、通風もよく明るい。また花や写真が飾られており、ソファも複数用意され、食後はテレビを見たり、会話をしたり、ゆっくりくつろげるように配慮されている。掃き出し窓からスロープを利用して、庭に出られるつくりとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく通風もよく、家族の写真や人形、ぬいぐるみ、誕生日会でいただいた長寿の祝いが額に入れられ飾られている。また、歩行器やシルバーカーも置かれ、利用者が居心地よく過ごせるように配慮されている。		